

大エリア	小エリア	ソフト面関連意見	ハード面関連意見
村松地区	大神宮 虚空蔵堂	イベント時のみでなく、年間を通じて人を呼び込めるといい	245拡幅に伴う、代替の駐車場が幼保用地エリアでは遠いのでは
		村最大の観光拠点のため、更に人を呼び込む必要がある	駐車場を造る際は、観光バスの入車や反対車線からの動線にも注意する必要あり
		観光目的というより、厄除けや十三詣りを目的に来る方が多い	道の駅の設立(観光地の中継・休憩地点)
		歴史的景観の再建	道の駅を設置するなら、大規模な土地の確保が必要
		大空マルシェの定期開催	陸側と海側を結ぶ地下通路or歩道橋の設置
		国道沿いにあり、近隣に道の駅等がないことから、大きな観光地の中継・休憩地点を目指してはどうか(参考:群馬県水沢観音)	森林地域の防火の備えが必要(大型消防車が進入できる道路、初期消火に備えた水道の確保)
		お堂での映画上映	大神宮と虚空蔵堂前の参道整備
			参道空き店舗の活用(カフェや雑貨など)
	村松晴嵐 の碑		村松晴嵐の碑から三重塔や村松海岸の景観が見えるようにする
			村松晴嵐の碑から見える歴史的景観の再建(水戸八景)
			村松晴嵐の碑までの歩道整備
			村松晴嵐周辺の再開発(周辺木々の整備)
	村松海岸	4WDやバイク、サーファー、釣り人利用者あり	八間道路の再開発(整備)、緑地帯の活用
		現状の利用者に加え、ランニングや散歩で地域の人が海岸を利用できるようにする	子どもから大人まで楽しめるサンドスキーができる大斜面の造設
		AR(拡張現実)技術による製塩風景等の昔の風景の可視化	J-PARCへの進入道路を海岸まで伸ばし、村松海岸エリアを新名所とする
		スポーツ合宿の活用(すでに中学校や高校の部活動合宿場所となっている)	八間道路へのトイレの設置(トレーニング者に対応)
		松くい虫等による松枯れ対応(地権者・村・県総力で、継続的に)	
		外来種の進入を防ぐ	
		J-PARC南側海岸の活用	
	阿漕ヶ浦 公園	計画エリア対象外とするとあったが、国道245号拡幅に伴う対応、国体以降の公園活用については委員会での検討が必要では	3.11被災後、園内が未整備。国道の拡幅に合わせて、既存施設の見直しが必要
		公園と阿漕ヶ浦の散策路等による一体活用と湖畔周辺整備がエリアの魅力に繋がる	湖沼の整地及び湖周辺の歩道整備(千波湖のイメージ)。お休み処を設置
		来園者が周辺の梨・イチゴ等の観光農園や休耕地を利用した地域活性化活動に参加できるようにする	湖畔でBBQやオートキャンプを可能にしてほしい
		桜が潮風に非常に弱いため、開発に当たっては、注意する必要あり	阿漕ヶ浦の目の前に、広い駐車場を造る
		アユを保存し、外来種の進入を防ぐ	阿漕ヶ浦駐車場からの参道入口に神明鳥居を造る
		湖畔に百合を植える(5~8月ごろ見ごろ)	ホッケー場へのタープ、イスの設置
		春は桜だが、秋の名所としてもみじか柳を植えてはどうか	花火の見学場所についても視野に入れる
			旧阿漕ヶ浦クラブ及びテニスコートを駐車場にする
	阿漕ヶ浦 クラブ跡地		旧阿漕ヶ浦クラブ跡地及びテニスコートの活用(BBQ場、景観を活用したお休み処等)
	真砂寮	観光開発には真砂寮地を活用できると良い。村には、地権者の原子力機構と交渉してほしい	歴史的景観の再現。『滝』と『白滝不動尊』を造る。ここで手を清めてから大神宮や虚空蔵堂へ参拝してはどうか
		村松と阿漕を一体と考えるなら、真砂寮の地点をうまく活用しないと、4エリアが分断される	「ほしいも」体験型テーマパークの設立
			県北物産館の設立
	J-PARC	東海村に最先端の研究を行う施設があることをより広く知ってもらう	アクセス道路を造る(北側からも入れるようにする)※八間道路の景観を損ねないよう、配慮が必要
			J-PARC展示館を造る(地域文化と自然と科学の融合)
	その他	イベント(大空マルシェ)の際は、将来的に、阿漕ヶ浦から八間道路まで隙間なく店舗が出せるようにしたい。また、駐車場と幌馬車を結ぶことができるとよいかもしれない	火力発電公園が現在、使用できない
		ヤンサマチの復活	村松地区は松と桜の名所であったことから、阿漕ヶ浦周辺や参道に松と桜を交互に植える
		キノコネットワークの保存	地域の方と花BOXの設置や(動線をつくると良い)季節の花を配布する
		周辺地図の作成	インフォメーションセンターは宿集会所と併用。現在の集会所は駐車場にする

東海村(仮称)村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会 委員からの意見一覧表(平成28年9月末締切)

大エリア	小エリア	ソフト面関連意見	ハード面関連意見
保育所 幼稚園 用地	幼保跡地	地域の交流ができるような場所づくり	緑地化, 公園化(散歩後の休憩所など)
		新川の活用(釣り, 魚の観察)	昼: グランドゴルフ, タ: サッカー場等, 夜: フットサルに活用できるような場所づくり
		地域・若者～中年層・事業所等のコミュニティ復活のための場所づくり	スポーツや遊び場など地域の子どもが遊べる施設を造る
			245号の4車線化により, 人が多く集まる。代替え駐車場, 情報発信地として最適
			物産館のような, 観光・商業施設を造る
			スパ併設の村民の交流館を造る
			村民農園併設のカフェレストランを造り, シェフの育成をする
			新川南側道路を高齢者のリハビリ場所にする
細浦青畝	真崎 古墳群	四阿や展望台の活用。古の眺望を復活できれば良い	南からの玄関口となるので, 大きな看板や人形を設置し, 誘導の目印にする
		真崎古墳群エリアの歴史を活用する(水辺と共に生きた東海村)	真崎古墳群をより親しみやすくし, 地域の憩いの場として整備する
		スマホをかざすと, AR(拡張現実)技術により, 古代からの移り変わりを見ることができるようにする	バリアフリーな周回路の整備
		真崎古墳群の魅力を活かした神楽沢近隣公園からの動線の提案 東海駅⇒神楽沢近隣公園⇒真崎古墳群⇒阿漕ヶ浦⇒村松	AR(拡張現実)技術を使った, メガネ型デバイスの活用(メガネをかけると, 古代の営みが見える。)
		三世代での古代生活体験, 自然観察, 地形地質観察, 地域の祭りによる郷土愛の醸成	
	天神山	散歩・トレッキング・花の名所として活用する	
	細浦	広大な景観・自然・ジオパーク的楽しみ方を提供する。いくつかのポイントでスマホを利用した説明サービスがあるといいだろう	周辺史跡や施設をつなぐサイクリングロードやジョギングルートに周辺ポイントとの接点を兼ねてお休み処をつくる
		メダカ・ドジョウ(ウナギ稚魚)の保存	
		湧き水保存	
	全体	駅周辺からのルートとして真崎古墳群ルート, 細浦ルートを提案する	駅周辺から繋がる遊歩道の整備
エリア 全体	—		史跡, 観光ポイントが分散するのでイモゾー家族等の案内看板を設置する
		村民が自慢できるものをつくる	写真撮影ができる, 映える場所づくり
		商工観光を一面に出すことは本計画にはそぐわないのではないか	バイク, 自転車, ウォーキング, ランニング, ベビーカー等のすみわけ
		おしゃれな歴史的観光場所を目指す(カッコイイ・カワイイ)	監視カメラの設置
		月替わりでイベントを実施する	ポイントごとにイモゾー家族の看板を設置し, 道案内する
		歴史あるイベント・情報発信を継続し, 知名度を広めていきたい	地球温暖化防止の観点からアスファルトではない駐車場づくりを進める
		勝田マラソンや水戸一高の歩く会の通り道にできないか	足湯の設置
		名物, お土産品の開発	ひたちなか海浜鉄道の延伸
		見える観光資源, 見えない観光資源をいかにPRするかが重要	一日いられるような健康センター, 簡易宿泊所誘致。駐車場でイベント実施
		AR技術やスマホによる見えない観光資源の見える化(古代の生活, 素粒子, 希少生物など)	
		歴史と未来の交流館との連携(実際に出土された場所でアプリ等を使って展示品を見ることができる)	
		周辺マップの作成(歩いて●分, ●kmなど分かりやすい表記)	
		バリアフリー&アリーの宣伝	
		観光ボランティアガイド, スマホやロボットを用いた情報提供を検討する	
		常設的な情報発信, タイムリーな情報発信が必要	
		阿漕ヶ浦⇒(村バスで)久慈川上流へ (舟で)石神城跡⇒久慈城跡⇒白方城跡を遠望しながら村松海岸への歴史ルートを提案	
		最も考慮すべき人の流れは『駅周辺』からと『海浜公園』からの誘導だ	
		コミセンなどの住民が集う主要ポイントと休憩所や子どもの遊び場などの点を結ぶことが重要だ	
		人の流れや活性化イメージを機能図的に整理する	
その他	計画の 進め方関係	全体のまとまりを出すために, これからの村づくりに関する主軸(キーワード)を村から示してほしい	
		パブコメを実施した上で計画を策定する	
		計画に条件を記載する。活性化計画は関係者がwin-winにならないとまとまらないだろう	
		計画を国体及び国道245号拡幅までの短期的計画, その後の中長期計画に分けて策定する	